

1. 被害状況、復旧状況

	被害状況等	復旧作業状況等
施設区分	6月18日 16時00分現在	
道 路	全面通行止め 6路線8区間	
	[国道342号] 一関市蔵美町天王～秋田県境（土砂崩落、落橋-祭時大橋）	白崖地区復旧工事中、祭時地区迂回路調査中、祭時～県境詳細調査中
	[国道397号] 奥州市胆沢区若柳字市野々原～秋田県境（法面崩壊）	胆沢トンネル西側土砂撤去中
	[主要地方道花巻衣川線] 奥州市衣川区大平（法面崩壊） 奥州市胆沢区下鹿合（路面損傷） 奥州市衣川区小田（路面損傷）	測量調査中 片側交互通行に向け工事中 片側交互通行に向け工事中
	[主要地方道栗駒衣川線] 奥州市衣川区餅転橋（路面損傷）	測量調査中
	[主要地方道盛岡横手線] 雫石町南畑～西和賀町沢内川舟（土砂崩落）	法面調査中
	[一般県道衣川水沢線] 奥州市胆沢区大袋（路面陥没）	片側交互通行に向け工事中
	片側交互通行 3路線3区間	
	[国道107号] 西和賀町ゆだ高原駅付近（路面沈下）	
	[一般県道夏油温泉江釣子線] 北上市和賀町内鱒沢（法面崩壊）	
[主要地方道花巻衣川線] 金ヶ崎町永栄中山（路面損傷）		
河 川	県管理 [胆沢川（五松林橋上流左岸）] 堤防天端にクラック有り。L=50m、W=1.5cm、深さ15cm。	
	[磐井川] 斜面崩壊により河道内に土砂流入（2箇所）。2箇所とも水位の上昇がみられないことを確認。	
	[久保川] 小規模な土砂崩落があり。堤防に一部クラック発生。	
	[尿前川（しとまえがわ）] 斜面崩落2箇所確認。	
	県管理外 [衣川支川有浦沢川（上衣川有浦地区）] 土砂崩落により河川閉塞。（L=30m、W=3-4m）	仮排水路を設置済。（奥州市管理普通河川） 国土交通省は応急対策に着手。
砂 防	・現時点での砂防えん堤の被害報告なし。	現在調査中
	・衣川地区で地すべりの報告	表層崩落により今後対応策検討。自主避難4戸18名。
		・TEC-FORCE、砂防ボランティア、県の合計61名が、土砂災害の危険箇所を緊急点検。箇所数は累計738箇所。 結果：危険度A（要検討）9箇所、危険度B（要詳細調査）35箇所
	・磐井川上流に斜面崩壊4箇所を確認。そのうち市野々原地区については、河川閉塞し、水位の上昇を確認。	・国土交通省では、17日13時に記者会見し、市野々原地区の天然ダム（河道埋塞）箇所における直轄砂防災害関連緊急事業の実施を発表。事業費-10.7億円 ・県は、市野々原地区に通じる重機運搬路を17日中に概成。当該地区への資材の搬入が可能となる。15時にバックホー2台、照明車が現地入り。 水田50haに水が引けない状況を確認。
	[土砂災害警戒情報] 15日から地盤の緩みを考慮し、通常より少ない雨量で発表。	
都市公園	奥州市管理 水沢公園、向山公園、見分森公園、北野公園、久保公園、高台公園 一部被害あり。	
下水道	県管理 [水沢浄化センター] 汚泥消化タンクかはん機及び、汚泥濃縮機故障	現在調査中 (別系統に運転を切り替えて機能維持しており、運転上は支障なし)

	対応状況等	判定結果
施設区分	6月18日	16時00分現在
住宅	<p>一般住宅(被災建築物応急危険度判定)</p> <p>・15日14時30分 - 県庁に、被災建築物応急危険度判定支援本部を設置。</p> <p>一関市</p> <p>15日、16日-巖美町市野々原地区、祭時地区において、判定のための事前調査を実施。</p> <p>17日-市野々原地区、祭時地区、槻木平地区で、県及び市が判定活動を実施。 体制:県2名、盛岡市2名、花巻市1名、北上市1名の計6名(3班体制) 奥州市</p> <p>16日 - 県2名と奥州市4名の計6名(2班体制)により、胆沢区、衣川区において判定活動を実施。</p> <p>17日 - 奥州市4名(2班体制)により、胆沢区において判定活動を実施。</p> <p>18日10時30分から胆沢区、衣川区で判定活動を実施中。 体制:県7名、盛岡市2名、奥州市2名、陸前高田市2名、釜石市2名、宮古市2名、岩手県建築住宅センター1名の計18名(9班体制)</p> <p>18日-20日これまでの判定結果をふまえ、胆沢区、衣川区の広範な地域で約800棟を対象に、県・市の他、新たに 岩手県建築士会、岩手県建築住宅センターの協力も得て、判定活動を行う予定。</p> <p>西和賀町</p> <p>16日 - 県職員3名(1班体制)により、川尻地区、白木野地区において被災建築物応急危険度判定活動を実施。</p>	<p>調査棟数46棟-危険住宅8棟、要注意住宅18棟、使用可能20棟。</p> <p>調査棟数33棟-危険住宅5棟、要注意住宅17棟、使用可能11棟。</p> <p>調査棟数34棟-危険住宅0棟、要注意住宅16棟、使用可能18棟。</p> <p>調査棟数2棟-要注意2棟。</p>
	<p>応急仮設住宅等被災者のための住宅対策</p> <p>市町村からの要請</p> <p>一関市 被災者が希望する場合の県営住宅への入居について県に要請あり。</p>	<p>一関市(3戸)、奥州市(3戸)、北上市(5戸)内の県営住宅を7月の定期募集から外し、被災者用に当面確保することとし、関係市に通知した。</p>
	<p>被災宅地危険度判定(建築物の判定と併せ宅地の調査を行うもの)</p> <p>一関市:17日 県1名及び市3名の計4名の職員で実施済。</p> <p>奥州市:判定の派遣依頼あり。 ・19日(県4班8名、市町村6班12名 計10班20名) ・20日(県5班10名、市町村6班12名 計11班22名)で実施を決定。</p> <p>西和賀町:町から要請あり。18日に県職員3名で実施中。</p>	
	<p>住宅相談窓口の設置等住宅情報提供</p> <p>19日より今回の地震に対応した住宅相談窓口の設置を予定。(県南、一関、北上土木部及び建築住宅課、県民住宅プラザ(盛岡、水沢)に設置予定)</p>	

土木関係被害復旧等報告

県土整備部

2.被害調査体制

(人)

	職員数	応援体制(土木職員)		
		昨日(17日)	本日(18日)	明日(19日)
県南広域振興局土木部	土木	21		
	建築	3		
	事務他	17	計	41
		6	13	13
一関総合支局土木部	土木	18		
	建築	3		
	事務他	15	計	36
		29	36	35
合計	土木	39		
	建築	6		
	事務他	32	計	77
		35	49	48



復旧情報  
作業情報

路線: 箇所  
当初規制状況 (被災状況)

# 土木関係被害復旧状況

県土整備部6月18日 16:00作成

全面通行止中 (迂回路あり)  
法面調査中

雫石町

西和賀町

花巻市

片側交互通行中



107号: ゆだ高原駅付近  
片側交互 (路面沈下)



397号: 石淵トンネル東側

片側交互通行中

主夏油温泉江釣子線: 鱒沢  
片側交互通行 (法面崩壊)

主盛岡横手線: 南畑  
全面通行止 (土砂崩落)

片側交互通行中

主花巻衣川線: 永栄中山  
全面通行止 (路面損傷)

全面通行止中  
片側交互通行に向け工事中



主花巻衣川線: 下鹿合  
全面通行止 (路面損傷)

監視中

胆沢川: 五松林橋上流左岸  
(堤防天端クラック)



397号: 漁止スノーシート付近  
(土砂崩壊)

397号: (土砂崩壊)

全面通行止中  
測量調査中



主花巻衣川線: 大平  
全面通行止 (法面崩壊)

全面通行止中  
片側交互通行に向け工事中

全面通行止

下甲地 ~ 秋田県境 路面亀裂箇所多数

監視中

尿前川: 斜面崩落2箇所確認

全面通行止中  
片側交互通行に向け工事中

主花巻衣川線: 小田  
全面通行止 (路面損傷)

主衣川水沢線: 大袋  
全面通行止 (路面陥没)

全面通行止中  
測量調査中

全面通行止

迂回路調査中



342号: 祭時大橋 (落橋)

震源地

詳細調査中

真湯 ~ 須川温泉 被災箇所多数

全面通行止中  
土砂撤去中

397号: 胆沢トンネル西側  
全面通行止 (法面崩壊)



交通開放済

主栗駒衣川線: 檜原新橋  
全面通行止 (路面陥没)

全面通行止中  
復旧工事中



342号: 白崖  
全面通行止 (土砂崩落)

全面通行止

応急排水対策着手 (国)

磐井川: 右岸 (土砂崩落 河道閉塞)

342号: 矢櫃ダム付近 (土砂崩落)

監視中

磐井川: 左岸 (土砂崩落 河道閉塞)

監視中

久保川: 小規模土砂崩落 (堤防クラック)





平成20年6月18日  
国土交通省緊急災害対策派遣隊  
(TEC-FORCE)

## 国道342号・祭時（まつるべ）大橋 調査報告

### ◇目的

国道342号・祭時（まつるべ）大橋は、2008（平成20）年6月14日午前8時43分頃に発生した「岩手・宮城内陸地震」によって、落橋した。

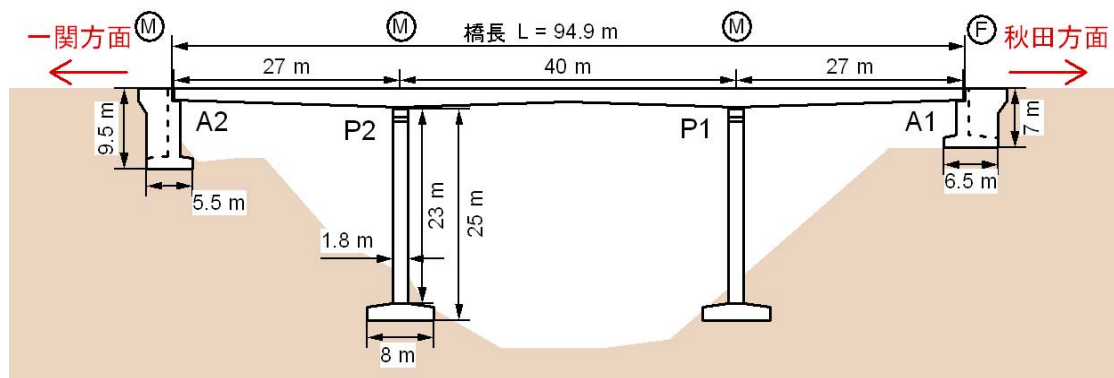
国土交通省では、橋梁工学の専門技術者等で編成した国土交通省緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を現場に派遣し、被災状況調査等を実施し、道路管理者である岩手県に報告するものである。

### ◇調査団の構成

富樫 篤英	国土交通省道路局地方道・環境課交通安全対策室企画専門官
玉越 隆史	国土技術政策総合研究所道路研究部道路構造物管理研究室長
生田 浩一	同上 道路構造物管理研究室研究官
運上 茂樹	(独)土木研究所構造物メンテナンス研究センター 橋梁構造研究グループ 上席研究員
堺 淳一	同上 橋梁構造研究グループ 主任研究員

### ◇祭時（まつるべ）大橋の概要

橋 長：94.9 m  
幅 員：9.0 m  
上部工形式：3径間連続非合成钣桁橋  
架設年次：1978（昭和53）年  
管 理 者：岩手県



## ○被災前の祭時（まつるべ）大橋



### ◇調査結果（概要）

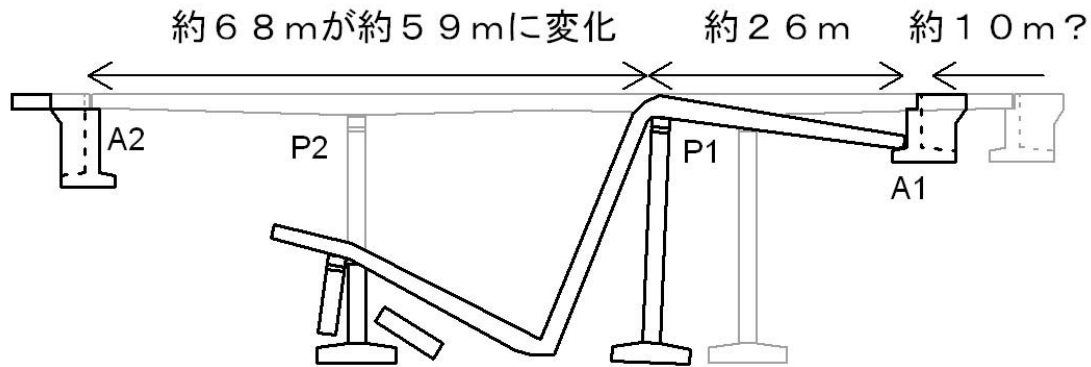
- ・ 本橋近隣の秋田県側では大規模な斜面崩壊等の地山の顕著な変状が多数みられる。
- ・ A 1（秋田側橋台）の後方路面は激しく破壊されており、周辺にも地割れが生じている。
- ・ A 1（秋田側）橋台は前方に向けて大きく変位している可能性がある。（現地での簡易計測結果等からの推定）。また、躯体側面に大きなひび割れが確認できる。
- ・ P 1（秋田側）橋脚は、A 1 橋台と同様に前方に向けて変位が発生している可能性がある。橋脚はA 1 橋台側にやや傾斜している。また、柱の一部に軽微なひび割れが確認できる。
- ・ P 2（一関側）橋脚は、橋脚上部、中間部、下部と3つに分断されていることを確認。橋脚上部は橋脚下部のA 2（一関側）橋台直近に落下した状態、中間部は上側をP 1 橋脚側にして横倒しの状態、下部はもとのフーチング上にある状態であることを確認しており、中間部2カ所で分断されたものと推察。
- ・ A 2 橋台は、パラペットと橋台躯体部の間に大きな離れ（約4 m）を確認。橋台背面路面は大きく盛り上がっているように見える状況（パラペットに押されて踏みかけ版とともに後方に押された可能性がある。）
- ・ A 2 橋台の前面には、桁との衝突痕が確認できる。一方、桁端部にはコンクリートとの衝突痕がみられる。
- ・ 橋桁は支承が破壊し、両端ともに橋台からはずれている状況。A 2 橋台側の橋桁はP 2 橋脚付近に落下し、A 1 橋台側の橋桁はP 1 橋脚上で折れ曲がるように大きく変形。

- ・変位量等については詳細な測量が必要あるが、簡易的な測量結果（1 m程度の誤差あり）によれば、以下の通りである。

A 1 橋台と A 2 橋台の間は、地震前に約 9 5 mであったのが約 8 5 mに約 1 0 m短縮。

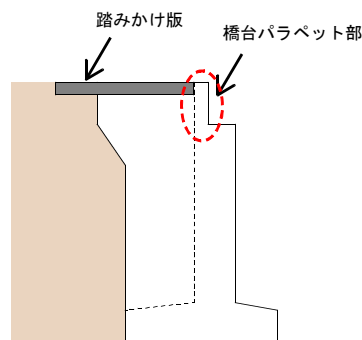
A 1 橋台と P 1 橋脚の間は約 2 7 mであったのが約 2 6 mに短縮。

P 1 橋脚と A 2 橋台の間が地震前に約 6 8 mであったのが約 5 9 mに短縮。



祭時（まつるべ）大橋の落橋状況（推定）

<参考>



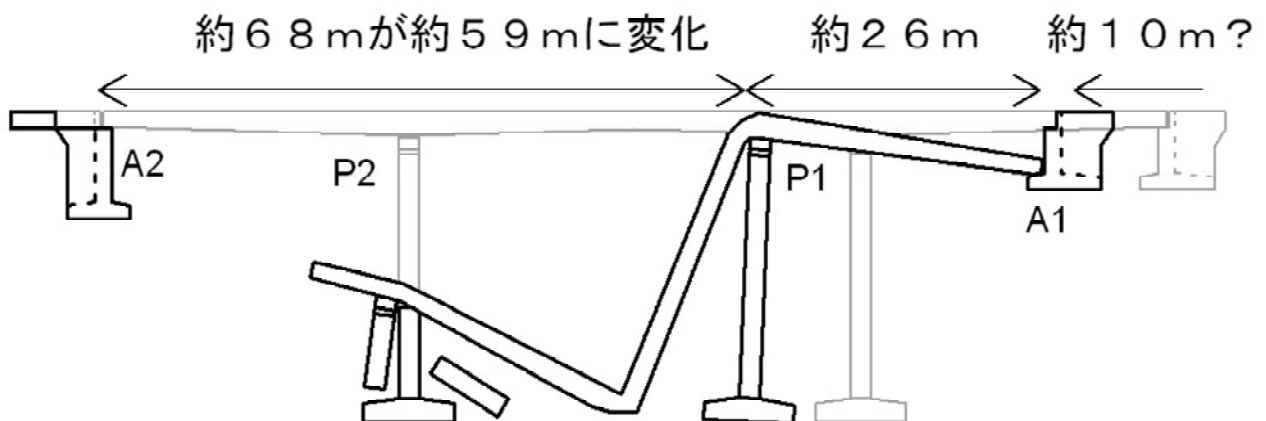
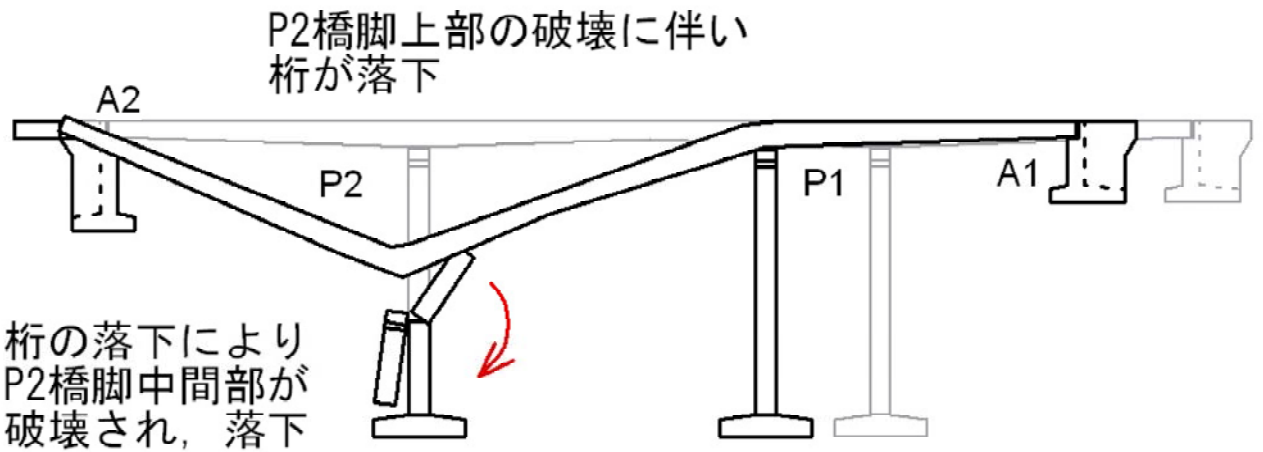
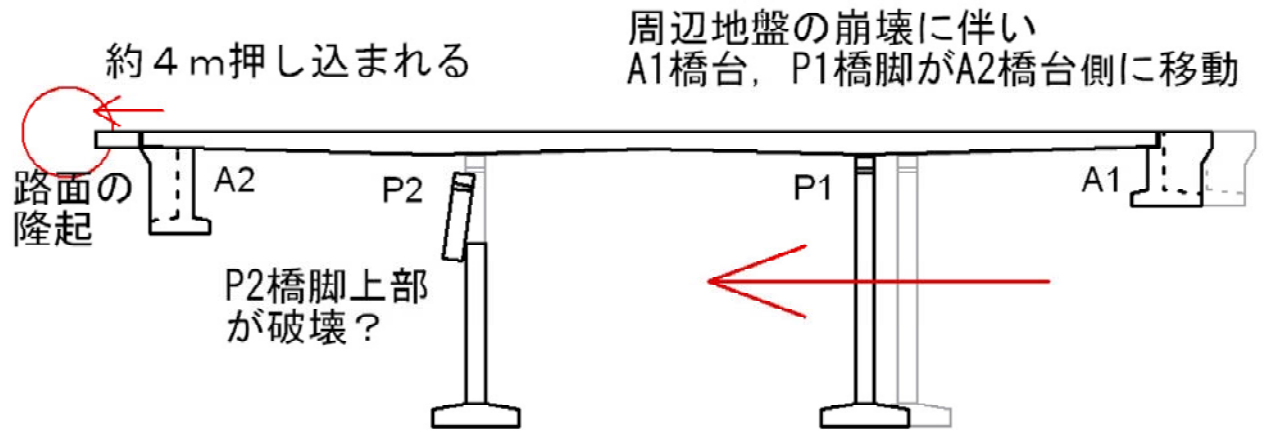
橋台のパラペット部と踏みかけ版

◇所見

- ・本橋梁の橋台周囲各所で地山崩壊が生じており、橋梁を支える橋台や橋脚が地盤とともに移動した可能性が高い。
- ・特に、A 1 橋台の後方（背面）での大きな地盤の割れ状況から、A 1 橋台と P 1 橋脚がともに前方に移動して橋桁を A 2 橋台の方へ押し出したことで、P 2 橋脚と A 2 橋台の大きな破壊と上部構造の落下につながった可能性が考えられる。
- ・損傷（落橋）メカニズムの解明には、詳細な測量、損傷範囲や状況の詳細な調査が必要である。



◇参考（落橋までの挙動の推定）



現地調査に基づく被災状況から推定。